

# 聖天山境内 九棟

## 国登録有形文化財(建造物)登録(上)



### ◆ 鐘楼

木造2階建、瓦葺、建築面積35㎡  
(宝暦11年(1761)建立/大正期・昭和26年改修)

「鐘楼」は籠堂の西に位置し、入母屋造り、檼瓦葺の造りで、石造とコンクリート造の二重の基壇上に建てられています。基壇は大正期・昭和26年にかさ上げされ、建ちの高い特異な外観を見せています。



### ◆ 籠堂

木造2階建、瓦葺、建築面積185㎡  
(明治12年建立/昭和30年代増築)

「籠堂」は聖天堂の北東に位置する木造2階建、寄棟造檼瓦葺の建物。南東には唐破風造銅板葺の玄関を設けています。

1・2階とも8畳6室を2列に並べ四周に廊下を廻らしています。

2階客殿は、欄間に装飾が見られ、明治18年(1885)と翌19年に昭憲皇太后が休息所として使用されたと伝えられています。

### ◆ 水屋

木造、瓦葺、面積3.4㎡(明治中期建立)

「水屋」は、仁王門の正面南寄りに位置する切妻造檼瓦葺の水屋で、中央に石製の水盤を据えています。軒廻りに様々な彫刻を施すなど、規模に比べ豪華で重厚な印象を与える建物となっています。



### ◆ 五社大明神

木造平屋建、銅板葺、建築面積15㎡  
(天明3年(1783)建立/平成23年改修)

「五社大明神」は、聖天堂の背面、三宝荒神社の南側に位置する切妻造銅板葺の社殿。(南から)神明宮、稻荷大明神、諏訪大明神、灌頂神、并殿大明神の5神を祀っています。軸部は弁柄塗で、軒廻りの虹梁や妻飾りなど、華やかな装飾を見せています。

大工棟梁は林兵庫正信です。

### ◆ 三宝荒神社

木造平屋建、銅板葺、建築面積3.9㎡  
(天明7年(1787)建立/平成23年改修)

「三宝荒神社」は聖天堂の背面側に位置する一間社流造、素木造、銅板葺の小社で、軒廻りを彫刻で賑やかに飾り、高い大工技術を示しています。大工棟梁は、国宝の聖天堂拝殿を建てた林兵庫正信です。



- 1 平和の塔
- 2 鐘楼
- 3 歓喜院籠堂
- 4 仁王門
- 5 閻伽井堂
- 6 水屋
- 7 三宝荒神社
- 8 五社大明神
- 9 天満社

平成二八年十一月一日(金)、国の文化審議会は熊谷市の妻沼聖天山に所在する「歓喜院籠堂、鐘楼、閻伽井堂、三宝荒神社、五社大明神、天満社、仁王門、水屋、平和の塔」九件を登録有形文化財(建造物)に登録するよう、文

部科学大臣に答申し、平成二九年五月二日付の官報告示にて正式決定しました。国宝「歓喜院聖天堂」や重要文化財「貴惣門」を手掛けた大工や彫刻師が関わった物件があるほか、地域の信仰や風土の歴史を明らかにするものとして評価されました。

平成二七〜二八年度、熊谷市教育委員会は国登録有形文化財への具申に向けて、妻沼聖天山内の建造物について測量・図面化や概要調査を実施しました。

執筆・監修 山下 祐樹  
資料 江南文化財センター